

大崎ものづくりネットワーク振興会員

有限会社しろやま農産



会社概要

事業内容 露地野菜経営、大隅黒土販売
 設立 平成17年4月1日
 代表者 (有)しろやま農産 代表取締役社長 白山優
 従業員数 15名



(有)しろやま農産
 代表取締役社長 白山優さん



▲搬入された黒土は、使用目的に合わせて川砂や赤土などを混合します。



▲トランベルといわれる、ふるい機を使い、不純物を取り除きます。



▲製品化された薩摩隼土は、チャーター船などで全国へ発送されます。



▲しろやま農産の大根農場 自社農場に“薩摩隼土”を利用しています。

(有)しろやま農産代表取締役社長の白山優さんは、45年間経営してきた、しろやま建設の代表を退き、平成17年に農業経営をスタートさせました。

現在、大根やさつまいもを中心に延べ60haの作付けを行なっています。

農業を営んでいく中で、土の大切さを再認識させられたという白山さんは、安心安全の作物のために農業に頼らない土壌づくりに力を注ぐようになったそうです。

土の有効性を実感したのは、畑の土を掘り返す、天地返しだったそうで、その畑でできた作物の品質、大きさはとても驚いたそうです。

そこで、大隅地方に広がる『黒土』に着目し、その特性を活かし、様々な用途に対応できるような商品化に向け研究を始めました。

黒土は、約2万5千年前の桜島の大噴火により噴出したシラス台地に堆積した土で農業にとっても適していることが知られています。

黒土のみの家庭菜園用、大規模な農園業用に赤土をブレンドした農場苗床用、川砂とブレンドしたグラウンド用の敷き砂の3種類を『薩摩隼土(さつまはやと)』と名づけ販売を始めました。

農業用は、自社の農場に利用したり、町内の造園用のポットやマンゴーをはじめとする施設園芸農家でも幅広く利用されて

います。

利用者からは、「収穫が倍に伸びた」「太いしっかりとした根を張った」「葉がいきいきとしてきた」など、高い評価を得ているそうです。

また、グラウンド用黒土は、全国の公共施設・学校施設の野球場や競技場などに幅広く使用され、高い浸透性、クッション性、芝との相性も良いと評判を呼んでいます。

その品質が評価され、なんと甲子園球場にも納品されているのだそうです。

白山さんは、『桜島の産物“薩摩隼土”を自信をもって全国へ発信していきます』と話されました。